地域資源を活用した地域再生プロジェクト

【格差の分野】地域経済の格差
【支援期間】平成２０年度～平成２２年度

目　的

ジオパークの取組による地域再生のまちづくりを推進するため、ジオツーリズムやエコツーリズムを取り入れた先進的な観光振興と自然環境の保護及び住民と行政が一体となった新エネルギー資源の調査・研究・利活用を図り、地域経済の活性化を目指す。

事業概要

国内最大級の黒曜石産地や旧石器遺跡群など、貴重な地域資源の活用と自然環境との共生をテーマとした「白滝ジオパーク構想」を推進し、新たな観光振興や教育の拠点地域として、交流人口の拡大を図るとともに、豊かな自然環境を保全し持続的な地域経済の活性化を目指す。

主な取組

①　白滝ジオパーク構想の普及啓蒙活動と地域資源の再認識の醸成
②　学術情報の集積と教育機関と連携した教育活動の推進
③　ジオツアーの開発・実施、ガイド養成プログラムの実施
④　世界ジオパーク申請に向けた調査と情報発信機能の充実
⑤　環境保全に向けた普及啓蒙活動と新・省エネルギーの推進

住民出前講座による普及活動

地元小学校と連携した石育活動

黒曜石産地へのジオツアー活動

日本ジオパーク認定の現地審査

効　果

■　セミナーや見学会の実施、啓蒙媒体の作成・活用により、白滝ジオパーク構想の普及と地域資源の再認識を図ることができた。
■　地元小学校での「石育（いしいく）」活動や、高校でのふるさと学講話など、教育機関と連携した活動を進めることができた。
■　黒曜石産地へのジオツアーを実施し、ツアー開発のためのニーズや課題を把握することができた。
■　日本ジオパークの認定により、内外への認知度向上とともに、ネットワークを通じた情報発信力の向上を図ることができた。
■　町民に対する新エネルギー導入の助成制度の実施により、環境保全への理解を高めることができた。

課題・問題点

■　地域資源の活用と環境保全を両立する地域活性化に向け、地域全体での意識共有が必要である。
■　学術調査、教育素材の開発を進めるとともに、それらを活用する教育活動の展開が必要である。
■　地域資源を活用する多様なツアー開発に向け、ガイドの育成と組織化など運営体制の整備が課題である。
■　より効果の高い世界ジオパークへの加盟を目指すため、ジオパーク活動の全般的なレベルアップが必要である。
■　さらなる新エネルギーの導入を図るため、公共施設への導入に向けた検討を行う必要がある。

今後の展望

地域資源を活用した地域活性化を目指す本プロジェクトにより、国内最大級の黒曜石産地をはじめとする貴重な自然環境や、そこに生きた人々の歴史や文化など、地域資源に対する価値の再認識と地域活性化への意識醸成が進んだほか、日本ジオパークネットワークへの加盟（日本ジオパーク認定）によって、認知度の向上も助長し「学び観光（スコーレツーリズム）」による交流人口の拡大への可能性も高まっている。

今後も地域資源の価値を再認識する取り組みを継続して進め、これらを観光資源として活用する地域活性化の取組を地域住民と共有するとともに、地域資源の価値をより高める学術情報の集積と、それらを活用する教育活動を進めることで、教育拠点として地域そのものの価値向上に向けた取組も推進していく。

また、地域特有の自然・歴史・文化をテーマとする多様なジオツアー・エコツアーをさらに展開するため、ガイドの育成や運営体制の整備を進め、「学び観光」による交流人口の拡大を図るとともに、今春オープンするジオパーク交流センターと既存の観光レクリエーション施設が連動した受入体制の整備によるビジターの滞留拡大を図るほか、世界ジオパークネットワークへの加盟に向けた取組を進め、情報発信力の向上を図っていく。

地域資源を活用した地域再生プロジェクトとしての支援期間は終了したところであるが、本プロジェクトによる地域の活性化に向けた取組は着実に進んでおり、今後もさらに「地域資源の活用」と「自然環境との共生」に向け、地域住民・民間企業・各種団体・教育機関・行政機関との協働による取組で、持続的な地域経済の活性化を推進していく。